



郵政博物館
研究紀要

郵政歴史文化研究会編

郵政博物館 研究紀要

令和3年度 第13号 (2022年3月)



令和3年度 第13号 (2022年3月)

公益財団法人通信文化協会

表紙解説

『郵便現業絵巻』(久保田米僊^{べいせん} 郵政博物館収蔵)⁽¹⁾

第十一図 馬そりと騎馬による郵便物の運送

“Special Conveyance for Transmission of Mails in Hokkaido (Yeso)”

北海道の冬は寒さが厳しく、日本海側、内陸部で冬の積雪は根雪となり、特に日本海側は豪雪地帯である。そのため、北海道では、冬に通常の方法では郵便物の輸送において困難を伴うため、雪上車が登場する1950年代半ばまで馬を用いた輸送が大きな役割を果たした。馬は寒さと雪に強く、深い雪道でも普段歩いている道を踏み誤ることのない習性があるといわれる。郵便物の量が多いところは馬そり（画面手前）、少ないところは騎馬（画面奥）により郵便物を輸送した。

第十二図 街道沿いの三等郵便局

“Third Class Country Post Office”

江戸時代の宿場町の風情が残る地方の街道沿いに開局した三等郵便局とその周辺の様子が描かれている。三等郵便局は、郵便創業期に設置された郵便取扱所がルーツで、局長は江戸時代に問屋役などの宿駅役人や名主、庄屋などを務めた家の出身者が多かった。画面左から三軒目の大きな建物が局舎である。街道側の壁の一部を改良して小さな釣り鐘状の窓口が2つ設けられており、来客はこちらの窓口で対応していた。窓口付近の柱には「三等郵便局」と記された看板が掛けられ、もう一方の柱には掛箱型の郵便ポストが掛けられている。饅頭笠をかぶり制服を身にまとった郵便外務員や赤く塗られた躯体と大きな車輪が特徴的な人車（人力で荷物を運ぶ車で、画中のものは杵車）も描かれており、明治期の地方における郵便局の様子がうかがい知れる貴重な資料である。

（編集事務局 田原）

1 明治26（1893）年、アメリカ合衆国シカゴ市で開催された「コロンブス世界博覧会」に出品するために制作された作品。詳細は、『郵政博物館 研究紀要』（第8号、2017年）を参照。